

生徒の将来やりたいことを鑑みた魅力的な学習サポートがある

K. K.

筑波大学 人文・文化学群 比較文化学類 進学
笠間市立 笠間中学校 卒業

進路指導では、先生方にとってもお世話になりました。私が学校型推薦で受験するという決意を固めたのは、私の進路相談に真摯に向き合い、昼休みや放課後等の時間外にもアドバイスをくださった先生方のおかげです。また、茨高には、課外授業があります。授業料が無料で、自分のわからないところだけでも聞くことができるこのシステムは、とても効率的だと思います。先生方はとても優しく、昼休みや放課後でも授業の質問に答えてくださいました。茨高には、大学受験を目指す生徒が大勢います。先生だけでなく、私たち自身も主体となって、進んで質問や進路調べをしていく事も重要だと思います。みんな目標とする大学や将来があり、同級生とともにわからないことを質問し合ったり、励まし合ってともに成長できるこの環境は、やはり茨高だから実現できるものだと思います。

私たちの学年は、コロナ禍で研修旅行等の行事が中止となり、高校生活の始まりである入学式までも簡素化されました。高入生で友人関係を築くことが難しかった、あの入学式後の長い休校期間は不安な思いで一杯でした。しかし、だからこそ、これまでと違い当たり前に過ごせた日常生活のありがたみに気づき、日々を大切に過ごせた3年間だったと思います。3年間の思い出では、高校生活最後の文化祭が一番印象に残っています。私は文化祭実行委員の喫茶の仕事をしました。先輩後輩に関係なく、文化祭を盛り上げる仲間として意見を交わしたり、お弁当の手配をしたりすることは、大変でしたがやりがいがありました。

私は、中学3年の頃、茨高は医歯薬系が強みの学校である、という事を知って興味を持ちました。茨高の良いところは、国際教養コースや医学コースをはじめとした、生徒の将来やりたいことを鑑みた魅力的な学習サポートがあることです。私たちの学年は、コロナ禍で友人を作る機会が制限されていました。それに、茨高は一貫生の人数の方が多いので、最初は不安がありました。しかし、1年次は高入生と一貫生で分かれていても、部活や委員会活動で友人を作ることができます。さらには、茨高は茨中を含め6学年が同じ学び舎に通うという特徴がある為、他の学校に比べ幅広い年齢の生徒が集います。私の所属した美術部は、個人で活動することの多い部活で、週に何日活動するかを自分で決めることのできる部活だったので、一貫生と関わることはできたのは、高校3年生が初めてでした。高校生活の2年間共に学んだ高入生には、深い絆が生まれると思います。そのうえ、一貫生とも関わりを持つことができるので、あまり心配することはないと思います。

私は、ずっと夢見ていた大学の学部に合格することができました。大学では、文系ではありますが、今後の医療の在り方を考えていくための「過去に起こった感染症の地域研究」を行いたいと思っています。大学に入学することが人生のゴールではありません。自分の興味ある分野を研究し、多角的に物事を捉える事のできる大人になりたいです。